

「ビリギャル」

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とは、よく言ったもので、受験などの苦しみを忘れるのはアツという間ですね。一生懸命勉強してギリギリ希望校に入学した我が娘も高校が楽しくて仕方ないようで、日々遊び回っています。

成績が落ちていてもノホホンとしている娘に喝をいれるべく、「ビリギャル」を購入。これ見よがしにリビングに配置。ところが、これが面白いのです。私の方がハマってしまいました(笑)。

初版は 2013 年のミリオンセラー。学年ビリのギャルが慶応大学へ現役合格する話ですが、単なる人生逆転劇ではないのです。「信じる」ことの尊さや「人間の可能性」を感じさせてくれる物語なのです。それも笑いとともに。

冒頭からビリギャルこと、主人公さやかちゃんが描いた日本地図に私は爆笑しました。

「こんなバカが日本の高校にいるとは・・・。」実に見事なバカっぷりで、メッチャ笑えます。それが坪田先生の指導で、見事に変わるのです。

この坪田先生のスゴイのは、①さやかちゃんに純粋に興味を持っている。②さやかちゃんをダメにしてきた過去を全て知っている。それは学校の環境だけでなく家庭環境まで。それも両親の生い立ちまで押さえているのです。③なんでここまで馬鹿なのか、その理由をつきつめ、その上で適切な指導を行っている。

これって、子どもの受験に限ったことではなく、企業内での従業員教育やスポーツの指導にも横展開できる内容です。人は心の底から信じて任せてもらうと、生まれ変わるのですね。(勿論、さやかちゃんのように、素直に実践するというのもポイントですが。)

そうやって受験日が近づくにつれ、さやかちゃんは家族だけでなく、ギャル仲間や学校からも応援されるようになります。またそれをプレッシャーにも感じてゆくのです。

それを見た坪田先生は日記を書いてストレス発散するよう提案。その日記が写真で紹介されています。辛うじて読めるくらい写りの悪い写真ですが、これがスゴイ！

「みんな応援してくれる分、さやかは強くなる。でも、こわくなる。その分、重いなにかが、さやかの上にのっかるの。」

そして次のように結んでいくのです。受験を通じて、人としても成長する様子が圧巻です。

「勉強しすぎて死んだ人はいない。

何かやりすぎて、死なないのって、勉強だけじゃない？

やっぱ、人間って勉強しても勉強しても、足りないってことだよな？」